

第16回大気化学討論会 講演プログラム

会期:平成22年11月17日(水)~19日(金)
会場:首都大学東京(八王子)国際交流会館
(〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1)

口頭発表について

◎口頭発表の1件あたりの講演時間は以下のとおりです。

ショート : 15分 (発表10分 + 質疑応答5分)

ロング : 25分 (発表18分 + 質疑応答7分)

◎口頭発表につきましては、PCプロジェクターが使用できます。(OHPの使用はできません)

◎PCプロジェクター使用に関する注意

- ・ノートパソコンは発表者各自でご用意ください。
- ・事情によりパソコンを持参できない場合は、事前に実行委員会にご連絡いただき、Power pointファイルをコピーしたUSBメモリをご持参ください。会場設置のパソコンにファイルをコピーして使用致します。ただし、OSやバージョンの違いなどによる不具合については対応できない場合があります。
- ・故障や接続トラブルに備え、USBメモリ等にコピーした発表書類をご持参していただくことをお勧めします。(接続・表示にトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順を繰り下げていただくことがあります。)
- ・発表前の休憩時間などに必ず接続をお確かめ下さい。

ポスター発表について

◎ポスターは1日目(11月17日)9:00~3日目(11月19日)17:00まで掲示することができます。

◎掲示終了後のポスターはお持ち帰り下さい。討論会終了後に残ったポスターは処分させていただきます。

◎ポスターボードの掲示スペースは幅1200×高さ2100mmです。

◎ポスター固定のために必要な物品はこちらで用意いたします。

コアタイム1:第1日目(11月17日)16:55-18:45

16:55-17:50 奇数番号を中心に説明

17:50-18:45 偶数番号を中心に説明

コアタイム2:第2日目(11月18日)13:30-14:30

13:30-14:00 奇数番号を中心に説明

14:00-14:30 偶数番号を中心に説明

2日間のコアタイムのうち、1日しか参加できない場合は、その日に発表をおこなって下さい。

(その場合、説明の時間を長く取るなどの対応をお願いします。)

口頭発表

1日目 11月17日(水) カッコ内は講演時間(単位:分)

10:05-10:15 (10) 実行委員からの連絡

招待講演

10:15-10:50 (35)	K-01	Simulation Chamber Studies of the Atmospheric Oxidation of Volatile Organic Compounds John Wenger (University College Cork, Ireland)	1
------------------	------	---	---

VOCs I

10:50-11:05 (15)	K-02	PTR-MSを用いたディーゼル車排ガス中ガス状ニトロ有機化合物のリアルタイム測定 ○関本奏子 ¹ , 猪俣敏 ¹ , 谷本浩志 ¹ , 藤谷雄二 ¹ , 山田裕之 ² , 堀重雄 ² , 下野彰夫 ³ , 疋田利秀 ³ (1(独)国立環境研究所, 2(独)交通安全環境研究所, 3(株)汀線科学研究所)	2
11:05-11:30 (25)	K-03	OH反応性測定による大気質診断とその測定法の展開 ○加藤俊吾 (首都大学東京 都市環境学部 分子応用化学コース)	3
11:30-11:45 (15)	K-04	東京都心部における反応性微量成分の総合観測およびOHラジカル反応性測定による大気質診断	4

	○吉野彩子1), 中嶋吉弘1), 加藤俊吾1), Jeeranut Suthawaree1), 田瀬 裕1), 宮崎 洸治1), 小城明日香1), 高橋優介1), 大野地代1), 下 紳郎2), 松永 壮2), Eric Apel3), James Greenberg2), Alex Guenther3), 上野広行4), 横田久司4), 石井康一郎4), 梶井克純1) (1) 首都大学東京 大学院都市環境科学研究科 2) 石油産業活性化センター 3) National Center for Atmospheric Research 4) 東京都環境整備公社 東京都環境科学研究所)	
11:45-12:00 (15)	K-05 メタン-OHラジカルの反応性に対する水蒸気の影響 ○井田明, 吉野彩子, 亀井成美, 山崎昌平, 中嶋吉弘, 梶井克純(首都大学東京・都市環境科学研究科)	5
12:00 -12:15(15)	K-06 植物由来VOCに関するオゾン反応性の測定 ○松本 淳(首都大学東京 戦略研究センター)	6

<12:15-13:15 (60) 休憩>

VOCs II		
13:15-13:30 (15)	K-07 Methyl halide measurements in temperate and tropical ecosystems ○Emanuel Blei1, Mathew R. Heal2, Kate V. Heal3 (1独立行政法人 国立環境研究所, 2 The University of Edinburgh, School of Chemistry, King's Buildings, 3 The University of Edinburgh, School of GeoSciences, King's Buildings.)	7
13:30-13:45 (15)	K-08 北極海上および太平洋上の非メタン炭化水素の季節変化と緯度分布 ○野副 晋, 横内 陽子(国立環境研究所)	8
13:45-14:00 (15)	K-09 温暖化を仮想したミズナラのイソプレン放出 ○松永壮1、Onno Muller2、中村誠宏2、中路達郎2、日浦勉2(1: 石油産業活性化センター、2: 北海道大学)	9

<14:00-14:15 (15) 休憩>

長寿命気体 I		
14:15-14:30 (15)	K-10 CONTRAILプロジェクトで観測された南半球上空におけるCO2の季節変動について ○町田敏暢(環境研)、松枝秀和、澤庸介(気象研)	10
14:30-14:45 (15)	K-11 成田上空における二酸化炭素の短周期変動について ○Tomoko Shirai1, Toshinobu Machida1, Shamil Maksyutov1, Hidekazu Matsueda2, Yousuke Sawa2, Yosuke Niwa2, Kaz Higuchi3 (1.NIES, 2. MRI, 3. York Univ.)	11
14:45-15:00 (15)	K-12 Inverse modeling of the surface CO2 fluxes with higher spatial resolution ○S. Maksyutov1, R. Saito1, A. Ganshin2, T. Oda, Y. Koyama1 (1- NIES, 2 - CAO, Dolgoprudny, Russia)	12
15:00-15:15 (15)	K-13 The National Institute for Environmental Studies (NIES) transport model with hybrid isentropic vertical coordinate ○Belikov D., and S. Maksyutov (National Institute for Environmental Studies)	13
15:15-15:30 (15)	K-14 レーザー分光計測装置を使用した森林サイトにおける大気中の二酸化炭素安定同位体比および水蒸気安定同位体比のリアルタイム連続計測 ○和田龍一、竹村匡弘1、大内麻衣1、中山智喜1、松見豊1、高梨聡2、中井裕一郎2、北村兼三2、栗田直幸3、藤吉康志4、村本健一郎5、檜山哲哉6、井上元6、児玉直美7、中野隆志8 (1 名大太陽地球環境研、2 森林総研、3 JAMSTEC、4 北大低温研、5 金沢大理工学域、6 総合地球研、7 農環研、8 山梨県環境研)	14

<15:30-15:45 (15) 休憩>

オゾン		
15:45-16:00 (15)	K-15 ライダーとMRI-CCM2を使った対流圏オゾン高濃度事例の解析 ○中里真久、永井智広、酒井哲、内野修、真野裕三、眞木貴史、出牛真、柴田清孝(気象研究所)	15
16:00-16:15 (15)	K-16 下部対流圏オゾンの可視-紫外分光観測による導出のシミュレーション ○大竹翔1 北和之1 仲地正樹1 入江仁士2 中里真久3 永井智広3 (1: 茨城大・理 2: 海洋研究開発機構 3: 気象庁気象研究所)	16
16:15-16:30 (15)	K-17 1996~2005年の国内地表面オゾンに対する東アジア外からの輸送の影響 ○茶谷聡、須藤健悟(名古屋大学)	17
16:30-16:45 (15)	K-18 東アジアの地表オゾンに対する発生源別寄与の長期変化 ○永島達也1、須藤健悟2、秋元肇3、黒川純一1、大原利真1(1: 国立環境研究所、2: 名古屋大学、3: アジア大気汚染研究センター)	18

<16:45-16:55 (10) 休憩>

ポスターセッション I	
16:55-18:45 (110)	奇数番号: 16:55-17:50 偶数番号: 17:50-18:45

18:45 第一日目終了

2日目 11月18日(木)

招待講演		
9:00-9:35 (35)	K-19 Using Ocean Optics to Estimate Trace Gas Photochemistry in the Surface Ocean William L. Miller, Jr. (University of Georgia, Department of Marine Sciences)	19

特別セッション「海洋大気化学」		
9:35-9:50 (15)	K-20 海洋表層・大気下層間の物質循環 -光と影- ○植松 光夫 (東京大学大気海洋研究所)	21
9:50-10:05 (15)	K-21 東経137度線における大気-海洋間二酸化炭素分圧差の十年規模変動 ○小杉 如央 ¹ ・笹野 大輔 ¹ ・石井 雅男 ¹ ・緑川 貴 ¹ ・高野 宏之 ² ・吉川(井上) 久幸 ³ (1 気象研究所地球化学研究部、2 気象庁海洋気象課、3 北大院・地球環境)	22
10:05-10:20 (15)	K-22 南大洋でのPTR-MSを用いて観測した大気DMS濃度の分布 ○古賀聖治(産業技術総合研究所)、野村大樹、和田誠(国立極地研究所)	23
10:20-10:35 (15)	K-23 大気中反応性有機ヨウ素化合物の観測と発生源解析(その2) ○横内陽子、斉藤拓也、大木淳之、向井人史(国立環境研究所)	24
10:35-10:50 (15)	K-24 落石岬における粒径分布の通年観測 ○三浦和彦、河田 綾(東京理科大学理学部)、向井人史、橋本 茂(国立環境研)、植松光夫(東京大学大気海洋研)	25

<10:50-11:05 (15) 休憩>

11:05-11:30 (25)	K-25 沖縄辺戸岬における観測およびCMAQモデル計算結果に基づくアジア大陸からの越境汚染物質長距離輸送の解析 定永靖宗 ¹ 、瀬良俊樹 ¹ 、鶴野伊津志 ² 、弓場彬江 ¹ 、高見昭憲 ³ 、黒川順一 ³ 、畠山史郎 ⁴ 、竹中規訓 ¹ 、○坂東博 ¹ (1大府大・院・工、2九大応力研、3国立環境研、4東京農工大・院・農)	26
11:30-11:45 (15)	K-26 MAX-DOAS 法による船上観測: 海洋上におけるエアロゾル・ガスの変動 ○高島久洋・入江仁士・金谷有剛(海洋研究開発機構・地球環境変動領域・物質循環研究プログラム・大気組成研究チーム)	27
11:45-12:00 (15)	K-27 単一微粒子質量分析法(ATOFMS)による南北太平洋でのエアロゾル化学組成 ○古谷浩志 ¹ 、鄭進永 ¹ 、三浦和彦 ² 、植松光夫 ¹ (1 東大大気海洋研、2 東京理科大学理学部)	28
12:00-12:15 (15)	K-28 大気降下物による窒素・リン化合物の海洋への供給 ○鄭進永 ¹ 、古谷浩志 ¹ 、小川浩史 ¹ 、植松光夫 ¹ (1東京大学大気海洋研究所)	29
12:15-12:30 (15)	K-29 西太平洋域における海洋生物起源有機態窒素エアロゾルの緯度分布 ○宮崎雄三、河村公隆(北大低温研) 鄭進永、古谷浩志、植松光夫(東大大気海洋)	30

<12:30-13:30 (60) 休憩>

ポスターセッション II	
13:30-14:30 (60)	奇数番号: 13:30-14:00 偶数番号: 14:00-14:30

<14:30-14:40 (10) 休憩>

GOSAT		
14:40-14:55 (15)	K-30 GOSAT搭載フーリエ変換分光計による温室効果ガスの観測とGOSATプロダクトの検証 ○森野勇、内野修、宮本祐樹、田中智章、井上誠、吉田幸生、町田敏暢、横田達也(国立環境研究所)、澤庸介、松枝秀和(気象研)	31
14:55-15:10 (15)	K-31 航空機観測による地上フーリエ分光計の検定とGOSATデータプロダクトの検証 ○田中智章、森野勇、内野修、町田敏暢、宮本祐樹 ¹ 、横田達也(国環研)、川上修司、境澤大亮、大山博史(JAXA)、長濱智生(名古屋大学STE研)	32

15:10-15:35 (25)	K-32	GOSATレベル2カラム濃度データを用いた亜大陸規模での二酸化炭素吸収排出量の推定 ○高木宏志1、古山祐治1、齋藤誠1、齋藤龍1、小田智宏1、Vinu Valsala1、佐伯田鶴1、Belikov Dmitry、横田達也1、渡辺宏1、Shamil Maksyutov1 (1国立環境研究所地球環境研究センター)	33
------------------	------	--	----

<15:35-15:50 (15) 休憩>

長寿命気体 II			
15:50-16:05(15)	K-33	スバルパール諸島ニーオルスンおよび南極昭和基地において観測された大気中酸素濃度の変動と全球二酸化炭素収支の見積り ○石戸谷重之1、森本真司2、田口彰一1、青木周司3、中澤高清3(1:産総研、2:極地研、3:東北大)	34
16:05-16:20 (15)	K-34	大気ポテンシャル酸素を用いた大気輸送モデルおよび大気-海洋間ガスフラックスの検証 ○遠嶋康徳、峰島知芳、向井人史、町田敏暢、山岸洋明、野尻幸宏(国立環境研)	35
16:20-16:45 (25)	K-35	化学気候モデルを用いた1970-2008年のメタン変動要因の解明 ○須藤 健悟1,2、Patra Prabir2、伊藤 昭彦3,2 (1名古屋大学・大学院環境学研究科、2海洋研究開発機構、3国立環境研究所)	36
16:45-17:00 (15)	K-36	N2Oアイソトポマー比データベース構築と全球化学輸送モデルへの適用 ○豊田 栄1、石島 健太郎2、吉川 知里1、吉田 尚弘1(1 東工大・総理工、	37
17:00-17:15 (15)	K-37	硫化カルボニルの観測と大気寿命の推定 ○齊藤拓也、横内陽子、向井人史(国立環境研究所)	38
17:15-17:30 (15)	K-38	近赤外レーザーによる暖温帯ヒノキ林におけるメタンフラックスの長期観測 ○高橋 けんし1、小杉 緑子2、金澤 瑛2、坂部 綾香2(1. 京大生存圏研/京大院理、2.京大院農)	39

<17:30-17:45 (15) 休憩>

17:45-18:00 (15)	奨励賞受賞講演
18:00-18:45 (45)	大気化学研究会総会

18:45 第2日目終了

19:00-21:00 (120) 懇親会 会場：国際交流会館 ルベソンヴェール

3日目 11月19日(金)

SMILES I			
9:00-9:25 (25)	K-39	超伝導サブミリ波リム放射サウンダ(SMILES)による最近の成果 ○塩谷 雅人(京大・生存研)、SMILESミッションチーム	40
9:25-9:40 (15)	K-40	超伝導サブミリ波リム放射サウンダ(JEM/SMILES)の軌道上性能 ○菊池健一1、佐野琢己1、西堀俊幸1、溝渕智子1、入交芳久2、落合啓2、JEM/SMILES ミッションチーム(1 宇宙航空研究開発機構、2 情報通信研究機構)	41
9:40-9:55 (15)	K-41	JEM/SMILES の Level 2 プロダクト改訂状況 ○光田千紘*1、鈴木 睦*2、岩田 芳隆*2、眞子 直弘*2、内藤 陽子*3、高橋 千賀子*1、今井 弘二*4、塩谷 雅人*3、西本 絵梨子*3、林 寛夫*3、佐野 琢己*3、谷口弘智*1(1) 富士通エフ・アイ・ピー、2) ISAS/JAXA、3) 京都大学生存圏研究所、4) とめ研	42
9:55-10:10 (15)	K-42	SMILES L2 データの初期検証について ○今井弘二(とめ研究所)、鈴木睦、佐野琢己、眞子直弘(JAXA)塩谷雅人、林寛夫、内藤陽子、西本絵梨子(京大)光田千紘、高橋千賀子(富士通FIP)	43
10:10-10:25 (15)	K-43	ISS/JEM/SMILESからの成層圏・中間圏ClO、BrO、HO ₂ の観測結果 ○鈴木 睦、佐野 琢己、眞子 直弘、岩田 吉隆 (ISAS)、塩谷 雅人、林 寛夫、内藤 陽子、西本 絵里子(京大)、光田 千紘、高橋 千賀子 (富士通FIP)、今井弘二(とめ研)、秋吉英治 (環境研)	44

<10:25-10:40 (15) 休憩>

SMILES II			
10:40-10:55 (15)	K-44	Retrieval algorithms for Version 2 of the SMILES Level2-research products	45

	P. Baron(1), H. Sagawa(1), T. Kasai(1), T. Tanaka(1), E. Dupuy(1), J. Mendrok(1), S. Ochiai(1), Y. Murayama(1), J. Urban(2), J. Möller(2) and D. Murtagh(2) ((1) National Institute of Information and Communications Technology(NICT), (2) Chalmers University of Technology)	
10:55-11:10 (15)	K-45 JEM/SMILESで観測した成層圏・中間圏におけるBrO _x 日変化の化学 ○笠井康子[1], B. -M. Sinhuber[2], P. Baron[1], 佐川英夫[1], M. Sinhuber[2], Jana. Mendrok[3], Joachim Urban[4], Donal Murtagh[4], SMILESミッションチーム[1,5]([1]情報通信研究機構, [2]KIT, [3]Lulea University, [4]Chalmers U. of	46
11:10-11:25 (15)	K-46 JEM/SMILESで観測した成層圏中間圏HO ₂ の日変化 ○津嶋 恭宏 ¹ , 笠井 康子 ² , 佐川 英夫 ² , 真鍋 武嗣 ¹ (1 大阪府立大学, 2 情報通信研究機構)	47
11:25-11:40 (15)	K-47 JEM/SMILESによる成層圏・中間圏CIOの観測とその精度 ○佐藤 知紘 ^{1,2} , 小野寺 悠 ^{1,3} , Baron Philippe ¹ , Eric Dupuy ¹ , 真鍋 武嗣 ⁴ , 落合 啓 ¹ , 佐川 英夫 ¹ , Joachim Urban ⁵ , Donal Murtagh ⁵ , Nathaniel Livesey ⁶ , 金森 英人 ² , 北 和之 ³ , 笠井 康子 ¹ (情報通信研究機構 ¹ , 東京工業大学 ² , 茨城大学 ³ , 大阪府立大学 ⁴ , チャルマス工科大学 ⁵ , Jet Propulsion Laboratory ⁶)	48

<11:40-11:55 (15) 休憩>

エアロゾル(測定法・光学特性)		
11:55-12:10 (15)	K-48 光学的手法による浮遊エアロゾルの形状分析法の開発 ○茂木信宏 ¹ , 竹川暢之 ¹ , 小泉和裕 ² , 中村貴之 ² , 近藤豊 ¹ 序論, (1.東大先端研, 2.富士電機システムズ)	49
12:10-12:25 (15)	K-49 エアロゾル粒子からの蛍光測定装置の開発 ○竹谷文一 ¹ , 金谷有剛 ¹ , 中村貴之 ² , 茂木信宏 ³ , 竹川暢之 ³ (1.海洋研究開発機構, 2.富士電機システムズ, 3.東京大学)	50
12:25-12:40 (15)	K-50 大気エアロゾルの光学特性の湿度依存性と吸湿特性の関係 ○中山智喜 ¹ , 鏡谷聡美 ¹ , 西田千春 ² , 持田陸宏 ² , 松見豊 ¹ (1名大院理・STE研, 2名大高等研究院)	51

<12:40-13:40 (60) 休憩>

エアロゾル(化学反応)		
13:40-13:55 (15)	K-51 大型テフロンチャンバーを用いたイソプレンや1,3-ブタジエンの酸化で生じるSOA生成機構の解明 ○佐藤圭、中尾俊介、C. Clark、L. Qi、P. Tang、D. Cocker, III(国立環境研、UC Riverside)	52
13:55-14:10 (15)	K-52 硫酸微粒子の生成・成長に対するアミンの効果 ○長門研吉、前田真志(高知高専)	53
14:10-14:25 (15)	K-53 錯体化による有機エアロゾルの雲凝結核としての働きの抑制 ○古川 文真、高橋 嘉夫(広島大学大学院理学研究科)	54
14:25-14:40 (15)	K-54 霧などの微小液滴によるNO ₂ 取り込み機構の解明:アニオンと界面活性種の効果 ○数下彰啓 ¹ , 衣川高志 ¹ , 江波進一 ² , 川崎昌博 ³ , M. R. Hoffmann ² , A. J. Colussi ² (1 京大院工, 2Caltech, 3 地球研)	55

<14:40-14:55 (15) 休憩>

エアロゾル(輸送・特性)		
14:55-15:20 (25)	K-55 2001-2010年小笠原諸島・父島における海洋エアロゾルの長期変動:低分子ジカルボン酸類の分布、起源と光化学的変質 ○河村公隆、立花英里(北海道大学低温科学研究所)	56
15:20-15:45 (25)	K-56 東シナ海を越えて輸送されるエアロゾルの航空機・地上観測-2009年10月12~19日 ○畠山史郎 ¹ , 花岡小百合 ¹ , 池田圭輔 ¹ , 小川佳美 ¹ , 大井彩子 ¹ , 渡邊泉 ¹ , 高見昭憲 ² , 清水厚 ² , 佐藤圭 ² , 定永靖宗 ³ , 坂東博 ³ , 浦田淳基 ³ , 加藤俊吾 ⁴ , 梶井克純 ⁴ , 新垣雄光 ⁵ , 畦地総太郎 ⁵ , 張代洲 ⁶ , 原和崇 ⁶ (1東京農工大学, 2国立環境研究所, 3大阪府立大学, 4首都大学東京, 5琉球大学, 6熊本県立大学)	57
15:45-16:00 (15)	K-57 春季の福江島における大気エアロゾル中の炭素・土壌系粒子の形態 ○鶴田治雄(東大AORI), 平野耕一郎・白砂裕一郎(横浜市環境科学研究所), 高見昭憲(国環研), 中島映至(東大AORI)	58
16:00-16:15 (15)	K-58 東シナ海における人為エアロゾルの雲微物理特性への影響	59

	○小池真、宇井麻衣子(東大・理)、竹川暢之、茂木信宏、近藤豊、松井仁志、梶野瑞王(東大・先端研)、大島長(気象研)、北和之(茨城大)	
16:15-16:30 (15) K-59	春季東アジア域で航空機により観測されたブラックカーボンの上方輸送過程 ○ 大島 長1、近藤 豊2、茂木信宏2、竹川暢之2、小池 真3、北 和之4(1. 気象研、2. 東大先端研、3. 東大院理、4. 茨城大)	60
16:30-16:45 (15) K-60	アジア大陸から北極域へのブラックカーボンの長距離輸送とその季節変動 ○ 松井 仁志、近藤 豊、茂木 信宏、竹川 暢之(東大先端研)、小池 真(東大院・	61

16:45

第3日目終了・閉会